

奈良教育大学

修士課程

大学院教育学研究科（修士課程）

伝統文化教育・国際理解教育専攻

伝統文化（書道を含む）教育・国際理解教育専修

Master's Program in Education,

Traditional Culture Education/International Education Major

令和4年4月

奈良教育大学大学院修士課程は、
新しく生まれ変わります！



伝

書道を含む
伝統文化の
継承と発展

共

日本人学生と
留学生の共修

多

国際理解教育に
基づく多文化共
生社会の創造

カリキュラム

修士課程では・・・

1. 伝統文化の持続発展や国際理解教育に貢献する高度な知識・技能、思考力・判断力・表現力を育みます。
2. 伝統文化やその教育、国際理解教育に関わる課題を探求・解決し、それらについて専門性を深めることができる研究力を育みます。
3. 教育の立場から多文化共生社会の実現やSDGsの達成に貢献できる力量を育みます。

修士課程のカリキュラムは次のとおりです。

修了要件は、共通コア科目 8 単位、実践コア科目と専門深化科目を併せて 18 単位以上（実践コア科目 2 単位以上、専門深化科目 14 単位以上を含める）、課題研究 4 単位の計 30 単位以上の修得です。

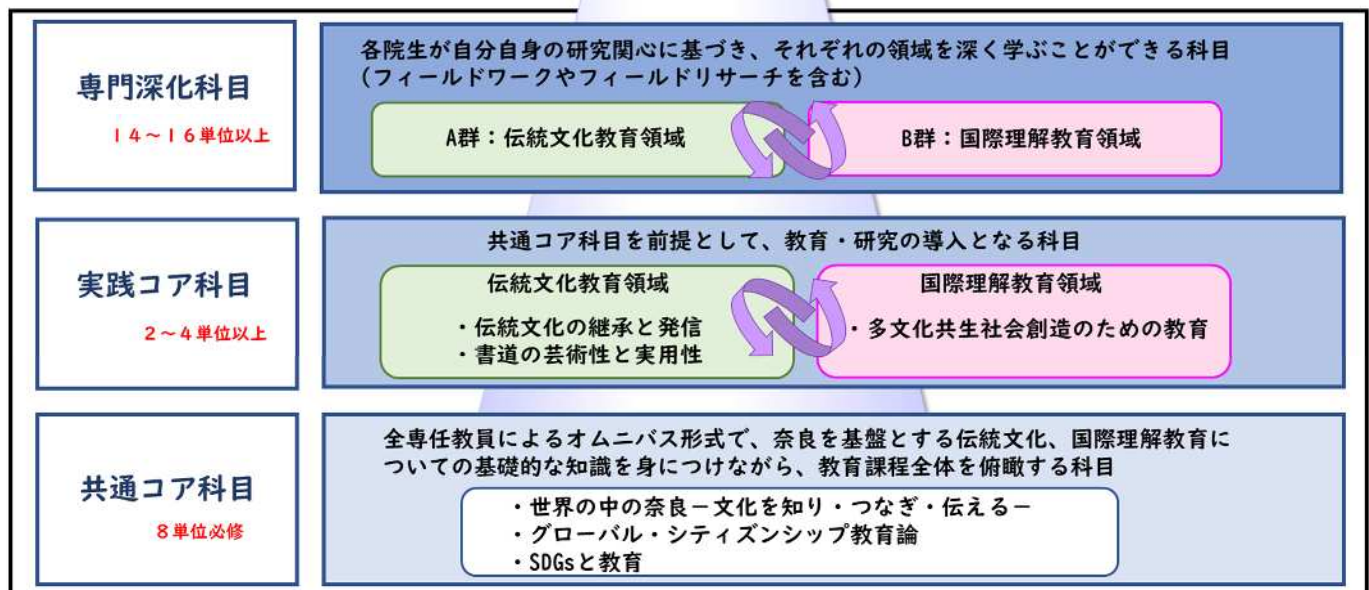
修士課程のカリキュラム体系

※修了要件：30 単位以上

修士論文

課題研究

ゼミとして、「共通コア科目」「実践コア科目」「専門深化科目」での学びを結合するための研究科目



カリキュラム

共通コア科目

世界の中の奈良 ―文化を知り・つなぎ・伝える―
グローバル・シティズンシップ教育論
SDGsと教育

実践コア科目

伝統文化の継承と発信
書道の芸術性と実用性
多文化共生社会創造のための教育



専門深化科目

伝統文化 教育領域

美術工芸文化財学Ⅰ（美術作品の「物語」）
美術工芸文化財学Ⅱ（美術作品との対話）
文化財技法Ⅰ（文化財の保存と技法の継承）
文化財技法Ⅱ（文化財技法の追体験）
文化財科学Ⅰ（文化財科学の方法）
文化財科学Ⅱ（文化財科学の実践）
漢字書法演習（漢字の五書体と篆刻の技法）
仮名書法演習（臨書から創作への展開）
書道芸術研究（書の背景）
書道文化研究（文字とは何か）

国際理解 教育領域

言語文化研究Ⅰ（日本語教育の原理）
言語文化研究Ⅱ（日本語教育の実践）
言語文化研究Ⅲ（漢文学とは何か）
言語文化研究Ⅳ（奈良ゆかりの日本漢文）
言語文化研究Ⅴ（身近な言葉）
言語文化研究Ⅵ（言語構造の探究）
国際理解教育Ⅰ（シティズンシップ教育の原理）
国際理解教育Ⅱ（複言語・複文化教育の原理）
国際理解教育Ⅲ（シティズンシップ教育の実践）
国際理解教育Ⅳ（複言語・複文化教育の実践）

課題研究

課題研究

修士課程の特徴

奈良を観ることが世界を観ることに、
そして、奈良を知ることが世界を知ることにつながります。

フィールドワーク

「共通コア科目」「実践コア科目」「専門深化科目」に共通して、博物館、研究所、学校等、奈良の地でこそできるフィールドワーク・フィールドリサーチが多く含まれます！

例えば、「**世界の中の奈良 一文化を知り・つなぎ・伝える一**」では、

- 奈良国立博物館
- 春日大社
- 天理市立黒塚古墳展示館
- 長岳寺
- (株)墨運堂
- 奈良市杉岡華邨書道美術館
- 郡山城・柳沢文庫
- 奈良県立国際高等学校
- 地域の日本語教室
- 外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援、子どもたち同士の交流の場



頭塔見学風景



彩色文様の復元実習



(株)墨運堂における見学風景

等において、フィールドワーク・フィールドリサーチを実施予定です。

グローバルな視野で学べる場

グローバルな視点をもって研究活動を行う場を提供します！

本学では、現在まで47の国と地域から380人余の留学生が本学に入学し、そのうち90余名が修士課程で研究活動を行ってきました。また日韓両国が長い歴史の中で行ってきた文化交流をそのフィールドにして、特に古代日本と密接な関係にあった百済とその文化に注目して、2008年から継続して、韓国・公州大学校とまた、百済文化国際シンポジウムを開催しています。修了生たちは本学で国際的な視野で多くの学びを得たのち、国内外問わず進学・就職し、様々な分野で活躍しています。

また、授業や研究の場のみならず、国際交流留学センター等が企画するイベントなどを通して、日本人学生との交流や日本文化に触れることができます。



担当教員

大山 明彦 教授 Oyama Akihiko



我が国の古建築、および美術工芸品などに於ける彩色文様を主たる対象として、それらを記録保存するための模写・復元図の制作を行うとともに、復元的考察をおこないます。そして展示などの手段を通して、文化財の教育・普及に資する役割を負い、また身につけた伝統的技法を、自らの創作活動や文化財の修復などに生かし、伝統文化の継承に幅広く貢献する手だてを模索しています。

前田 広幸 教授 Maeda Hiroyuki

これまで日本語の音声・音韻や、文法にかかわるテーマについて研究を行ってきました。確かな理論的基盤をもった、発見的・実証的な研究を目指しています。会話資料の分析や、方言談話の分析、文献資料を用いた音調分析等に興味があります。理論的な枠組としては、最適性理論と呼ばれるアプローチに共感しています。また以前には、敬語、とりたて、否定、授受、再帰といった、文法的な問題にも興味をもっていました。



橋本 昭典 教授 Hashimoto Akinori



中国思想、とくに人間の感情と道徳・規範の関わりという問題を軸として、諸子百家の思想や儒教經典の解釈史である経学の研究を行っています。また近年は日本における漢学を受容についても関心をもち、奈良、滋賀、兵庫といった地域を中心に、現存する史料や史跡から学問の実情、藩校の実態について調査を行うことから始め、これまで行ってきた中国思想・経学研究と連係させて広く東アジア儒学を捉えようと試みています。

山岸 公基 教授 Yamagishi Koki

奈良に淵源する日本の仏教美術、特に仏像彫刻を主な研究対象としてきましたが、奈良の美術は中国・朝鮮半島から遠くインド、さらにギリシアやエジプトの造形へと遡及できる世界性を持つものです。また、日本の各地域が奈良の美術をどのように受容し自らの美術としたか、にも興味をもっています。美術として結実した、自然的・宗教的・民族的・地域的障壁を超える人間の相互理解の様相を、地道に跡づけてゆくことを目指しています。



担当教員

吉村 雅仁 教授 Yoshimura Masahito



「日本語脳」と「英語脳」などのように、言語能力が言語ごとに別々の箱に入っているかのように考えられることもありますが、実は、部分的なものも含め、様々な言語変種が絡み合った複合的能力が個人の言語能力だとする見方が知られるようになりました。私は、複言語能力と呼ばれるこの言語能力観に基づき、文化能力も含めた言語教育のあり方（カリキュラム、方法、教材、教員養成）を研究しています。

和泉元 千春 准教授 Izumimoto Chiharu

日本国外で日本語を学ぶ人たちは142の国・地域に385万人以上いると言われています（2018年現在）。また日本国内には、288万人を超える「外国人」が在留しています（2020年現在）。日本語を外国語、または第2言語として学ぶ人たちに対する言語文化の教育について考えるのが日本語教育学です。日本語教育を通して、グローバル化が進む世界、そして、多文化共生の推進が求められている日本社会における「ことば」の役割について考えていきましょう。



北山 聡佳 准教授 Kitayama Satoka



書道のうち、特に日本特有の仮名書道による造形表現・造形論、および、広く書写書道教育を研究対象としています。平安時代に隆盛を極めた仮名表現の奥深さを、伝統文化として伝えることを目的に、分析的に捉えます。それらを活かして、制作をおこない、作家として仮名書道作品の発表もしています。一方で、文字教育について、初学者を対象とした書き方や字形を研究しています。幅広く「文字」を捉え、楽しみ、伝えませんか。

橋崎 頼子 准教授 Hashizaki Yoriko

グローバル化・国際化する社会において、多様な背景・価値観を持った人々が共に生きる空間を作る担い手としての市民を育てることが、教育に求められる重要な課題の1つだと考えています。そのためのカリキュラムや教育方法、教師教育の考え方を明らかにすることを研究課題としています。特に欧州の教育機関が開発したシティズンシップ教育のモデルや、日本の学校での取り組みを調査しています。



Q1

専修免許状（教員免許状）は取得できますか。

A 1

- 修士課程においては、基礎となる一種免許状を所有していても、専修免許状を取得することができません。

Q2

修了後の就職先はどのようなところが想定されていますか。

A 2

- 他大学大学院の博士課程進学、研究者（母国の大学等を含む）、民間企業（母国の企業を含む）、公務員（地方自治体の文化財担当（学芸員など）を含む）、国宝・重要文化財の修復に携わる修復技術者、日本語教師（主に国外）等を想定しています。

Q3

夜間開講はありますか。

A 3

- 修士課程においては、夜間開講はありません。



Q4

**留学生です。
修士課程に入学するために、日本語能力の条件はありますか。
修士課程で学ぶためにはどの程度の日本語能力が求められますか。**

A 4

- 日本語能力は入学試験（筆記、口頭）で測ります。
- 必要な日本語能力は専門領域によって異なりますが、最低限、専修に共通の科目の履修（日本語による）等、大学院でのコースワークが行えるだけの日本語能力が求められます。
- 参考までに、本学では、学部研究生の入学条件を日本語能力試験N2以上としています。

Q5

学生宿舎はありますか。

A 5

- 大学から歩いて約10分の場所に国際学生宿舎があります。宿舎には日本人学生と留学生と一緒に暮らしています。部屋は個室です。
- 宿舎には男性70名と女性30名の合計100名が暮らすことができます。
- 宿舎に食堂はありませんが、ご自身で料理を作ることができる部屋があります。
- 宿舎の費用は、宿舎料と維持管理費で月額9,700円です。その他に部屋と共用部分で使う電気代・水道代などを払う必要があります。
- このほかに、橘寮（女子学生寮）が大学から徒歩5分のところにあります。

その他

標準修業年限

2年

学位の種類

修士（教育学）

入学定員

20名

授業料

入学料282,000円（予定）

授業料535,800円（前期267,900円・後期267,900円）（予定）



※修士課程においては、専修免許状は取得することができません。

※修士課程においては、夜間開講を行いません。

詳細は下記にお問い合わせください。

奈良教育大学 〒630-8528 奈良市高畑町

入試に関すること【入試課】

TEL：0742-27-9126

E-mail：nyuusi@nara-edu.ac.jp

授業内容に関すること【教務課】

TEL：0742-27-9322

E-mail：kyoumu@nara-edu.ac.jp

設置計画に関すること【企画連携課】

TEL：0742-27-9296

E-mail：kikakugr@nara-edu.ac.jp



【令和3年5月発行】